

令和7年度 星槎大学・大学院学位記授与式 学長式辞

横浜では、徐々に冬の寒さも遠のき、今日にも桜の花が開こうとしていて、卒業、修了される皆さんの門出を祝っています。日本では北は北海道から南は沖縄まで、そして中には海外からも、ご参加の卒業生並びに修了生の皆さんの地域では、春の訪れはいかがでしょうか。

本日ここに、令和7年度星槎大学・大学院学位記授与式を挙げるに当たり、学位取得者の皆さん、並びにご家族、関係者の皆さま方に、心よりお慶び申し上げます。おめでとうございます。

本年度、本学で学位を取得されました方は、共生科学部 171 名、大学院教育学研究科修士課程 24 名、同 博士後期課程 1 名、大学院教育実践研究科専門職学位課程 20 名の皆さんです。

星槎大学の教育理念は、「人を認める」「人を排除しない」「仲間を作る」という 3 つの約束を基盤にして、共生社会の実現に寄与する教育、個性と可能性を伸ばす教育、実践力のある人材を育てる教育にあります。

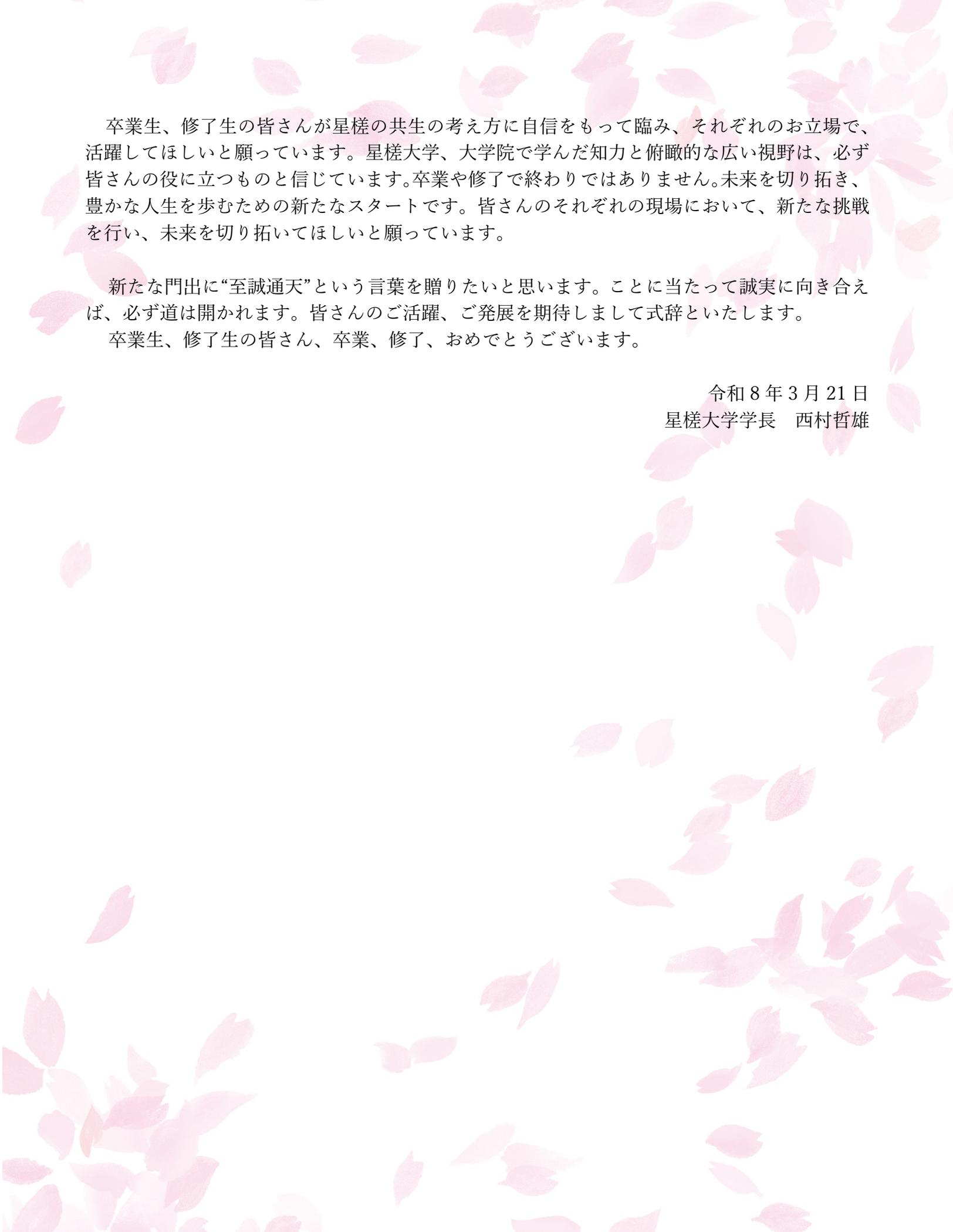
皆さんは、教科書での地道な学びと共にWebライブスクーリングや会場でのスクーリングで、共生の理念で結ばれた様々な科目を学び、ディスカッションを通して自らの課題解決に取り組んできました。そうした成果をこれからの人生に活かすとともに、共生社会の実現に貢献してほしいと願っています。

新聞やテレビの報道でご承知のように、アメリカ合衆国とイスラエルが2月28日、イランに対する軍事攻撃を行いました。一方イランはイスラエルをはじめ、中東湾岸諸国の原油施設などに対し報復攻撃を行っています。また、ホルムズ海峡に機雷を敷設したとの報道がなされ、世界経済にも影響が出始めています。

高市首相が一昨日、アメリカ合衆国を訪問し、トランプ大統領と会談しました。中東情勢に話が及び、日本が湾岸地域の早期沈静化に努力することが報じられています。日本の立場として、イランとアメリカの間での仲裁外交の努力がとても重要であると思います。

共生社会の実現を目指し、その実現に貢献できる社会人の育成を掲げる星槎大学を卒業、修了される皆さんには、是非、このような国際情勢に常に関心をもち、解決すべき方向性を探っていただきたいと思っています。また、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻から4年経ちましたが、和平交渉への道筋が見えなくなり、暗礁に乗り上げて膠着状態です。

いずれにしましても、ロシアによるウクライナ侵攻に始まった戦争により、双方、多くのかげがえのない命が失われ、大変憂慮すべき状況であり、共生の理念とは程遠い状況です。一刻も早く停戦し、平和が訪れることを願っています。こうした国際情勢においても、日常生活においても、常に「相手を敬う」気持ち、態度が大切です。



卒業生、修了生の皆さんが星槎の共生の考え方に自信をもって臨み、それぞれのお立場で、活躍してほしいと願っています。星槎大学、大学院で学んだ知力と俯瞰的な広い視野は、必ず皆さんの役に立つものと考えています。卒業や修了で終わりではありません。未来を切り拓き、豊かな人生を歩むための新たなスタートです。皆さんのそれぞれの現場において、新たな挑戦を行い、未来を切り拓いてほしいと願っています。

新たな門出に“至誠通天”という言葉を送りたいと思います。ことに当たって誠実に向き合えば、必ず道は開かれます。皆さんのご活躍、ご発展を期待しまして式辞といたします。
卒業生、修了生の皆さん、卒業、修了、おめでとうございます。

令和8年3月21日
星槎大学学長 西村哲雄